

- [2022 / 7 \(16\)](#)
 - [2022 / 6 \(20\)](#)
 - [2022 / 5 \(17\)](#)
 - [2022 / 4 \(21\)](#)
 - [2022 / 3 \(17\)](#)
-
- [2022 / 3 \(17\)](#)

相駿国境2

2022/03/29(火)曇・15/46

今朝は、寒の戻りで寒い。野菜も、ブルブル。

つづき

県境に道がないことがハッキリした。それが判明して目的は達した。藪漕ぎはイヤだから、三角点北の最初のピークに戻る。

時間があるので、ピークの北東尾根を下って様子を探った。

尾根は北面で藪はなく、キレイな尾根だった。

眼下にゴルフ場が見えた。プレーの音が鮮明に聞こえる。

150mほど下った。ゴルフ場の柵が見えた。この柵を左に辿れば
県境沿いに[下谷](#)集落まで行けると踏んだ。

しかし、問題があった。足元を見渡すと、赤・黄・白・桃色などの
ゴルフボールが多数散乱していた。

つまり、ここまでボールが飛んで来るとのこと。ゴルフ場は連休で
多くの客がプレー中。ボールが飛んでこない保証は無かった。

安全第一で、県境調査はここで終了した。十分だった。

ピークに上り返し、前回、気になった北西に下るテープを下る。

道は昔の杉道で掘割が続いていた。自然林から人工林を下ると
右に小沢が現われ、林道に降りれた。

すっかり晴れた林道をブラブラ下って、[下谷](#)集落着。空腹だったので
辺りの梅花を堪能して昼食を済ませた。

おわり



[駿河小山](#) 駅前の桜



湯舟付近の紅梅



紅梅が見事

相駿国境

2022/03/21(月)曇・15/47

昨日は、2月5日、矢倉岳から[駿河小山](#)の相模・[駿河国](#)境は、三角点北から藪で道は確認できなかった。昨日、リベンジで再確認に行った。天気＝曇り、標高差

=538m、参加=2名

[駿河小山](#)の集落に駐車し出発。辺りは、白梅の大木が良い香りを放ち見事だった。

林道を上って行くと、集落の方が立派な犬を連れて散歩だった。犬は、

エアデール・テリアとかで、元気が良く、高齢の女性は、グングン

引っ張られ、速足で歩きざるを得なかった。

林道を標高約470mから標高634mの三角点目指す。尾根はキレイで

上り易い。山が富士山火山礫の砂で膝に優しい。前回、確認した三角点には

簡単に着いた。

ここから相駿国境を北に下る。二つ目の小ピークから地図上の国境を下るが

程なく、深い笹藪に阻まれる。やっぱり国境上は道が無かった。眼下には

リバーサカワ [GC](#) が俯瞰出来て、既にお客がプレーを楽しんでいた。

地図上で正しい国境に道はなかった、が正確に確認出来て今回の目的は

達せられた。

それが分かったので、踵を返し、再び三角点北の最初のピークに上り

返した。

つづく





2022/03/18(金)雨 練習

「まんぼう」

が、解禁でようやく、巡礼・ウォーキングが実施出来そうだ。

2・3月は、実施出来なかった。

会員の皆様も、「やっと活動出来る」で、喜びがイッパイ。。

かねてから、巡礼・ウォーキングでは、終了後、概ね足が痛い。

山でなく、舗装道路は、足の負担が大きい。

で、良い靴を探していた。

知人が、「KEEN」の靴がイイと言っていた。

ま、ものは試しで購入した。片足、1万以上するが、仕方がない。

まだ、使用していないが、楽しみである。

今月の富士山ウォーキングは、23日予定です。



「KEEN」靴



3月17日(木) 晴・18/48

[返信](#)・[引用](#) [編集](#)

[済](#)

投稿者：たかチャン 投稿日：2022年3月17日(木)06時46分10秒

地震・雷・火事・オヤジ。地震は怖い。昨夜は、相当な揺れだった。
寝ていると、立っている時より、揺れを感じる。犠牲者の方に合掌。

じゃ～ん・2

今、畑で美味しいモノ、第二弾は、「トウナ(臺菜)」
ハクサイ・チンゲンサイなどが臺立ちしたモノが逸品。

この時期のモノ。
足が速いので、八百屋にも少ない。

色がキレイ、味は甘くて美味しい。
辛子醤油でいただく。
ピアの友にサイコーですね。





3月16日(水)晴・17/43

[返信・引用](#) [編集](#)

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年3月16日(水)05時43分5秒
ジャ〜ン、

いよいよ春。野菜は収穫の時期。
この時期、最大・最高の期待は、「新タマネギ」
昨日、極早生を2ヶ収穫した。
いただく、料理方法は決まっている。写真のように、

1. タマネギに八方の切り込みを入れる。
2. 切り込みの頭にバター片を乗せる。
3. レンジで中位なら、3分チンする。

バターが程よく溶け、タマネギは「しんなり」する。
いただく。
タマネギは、柔らかく・甘く・キレイ。

サイダイの春の味覚。
サイコーの自然の恩恵。

畑を始めて早17年。
これだから畑は止められないですね。
ご馳走様〜!!!

PS パソコンでHPが薄くて見にくい意見がありました。
私のPSは、目の保護のため、最大に薄くしてあります。
PSで見にくい場合は、「設定」から色を濃く出来ます。
まず、ヤフー・グーグルなどのサイトで「PSの色を濃くする」
を検索すると、いろいろ方法が表示されます。やってみてください。





3月15日(火)雨・19/57

[返信・引用](#) [編集](#)

投稿者:たかちゃん 投稿日:2022年3月15日(火)06時35分6秒

「まんぼう」も、漸く解除の見込み。ヤレヤレである。

つづき

(下)権現岳からミツバ岳に向かう。このコースは、シッカリした道標はない。地図は、100m程下って南(左)に曲がる。ただ、西に向かう尾根が大きくハッキリしている。

いい調子で下っていたら、分岐を見落とし、下り過ぎてしまった。皆様には申し訳なかったが、上り直した。後続も間違っ、ウロウロしていた。地形図を見ても、完璧に間違いやすい尾根だった。

かなり下って漸くミツバ岳着。やはり今年は開花が遅かった。一週間から十日ってところだろうか。山花の鑑賞タイミングは、気候に左右されるので難しい。今年は、何処も遅いだろうか。

ミツバ林の中で昼食。早朝から何も食べていないので超空腹。カップラーメンと昨夜作った、手製のサンドイッチ。丸パンに、畑のレタス・蕩けるチーズ・ハム・茹でタマゴにマヨネーズを混ぜたソース。ボリュームがあり、ニヶ食べれなかった。

食後、少しゴロゴロして下山。丹沢湖まで超急下降。ただ、岩場が無いので、やはりこちらが正解だった。無事、湖に降りて二十分程車道を歩

き、駐車場着。湖畔のミツマタが満開で見ごろだった。今回もイイ山でした。

ど〜が〜観れます。 <http://susono-reihou.babyblue.jp/0000-16.mp4>



3月14日(月)雨・19/57

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年3月14日(月)06時45分18秒

気温が高い。久しぶりの雨。畑の野菜が喜々。

昨日は、西丹沢・(下)権現岳(1018m)～ミツバ岳でした。
コースは、丹沢湖～南尾根～(下)権現岳～ミツバ岳～丹沢湖。
天気=晴れ、標高差=約718m、参加=4名。

権現岳に「三桮(みつまた)の花」を観に行く。この時期、ミツマタの花が美しい。西丹沢には、権現山が二つある。一つは、今回の丹沢湖北のもの。一つは、箒沢北のもの。

ややっこしいので、便宜上、上の権現、下の権現に分けてある。今回は丹沢湖北の(下)権現山。丹沢湖に駐車して8:16出発。天気はまずまず。湖畔からモーレッツな上り。

まだ冬枯れを残すブナ林が美しい。早くも上から二人下って来た。花を聞けば、「まだ、一週間から十日早い」の情報。やはり、今年の寒さの影響だろう。

登山道は、上部の岩場に達した。今回は、この急な岩場を下るのが危険と判断し反時計回りコースを選んだ。ま、この選択は正解だった。また、時計回りは昼食が権現岳になる。

反時計は、丁度、ミツバ岳が昼食時間で、これも丁度良い。モーレッツな上りをこなし、権現岳10:44着。標高差=718mを約2時間半。まあまあ時間だった。ここで記念写真を撮ってミツバ岳に向かう。

つづく





3月11日(金)晴・12/42

[返信・引用](#) [編集](#)

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年3月11日(金)06時43分40秒

昨日は、

富士山・山岳スキーでした。コースは、洞門～上塚コル～南面途中まで～上塚コル～駐車場下まで滑降～洞門。標高差＝約700m、天気＝曇り、参加＝2名

洞門から出発。既に車が1台あった。前回、雪はガジガジでアイゼンを履いたが、今回はナシで上まで行けた。一見、雪は早くもザラメの様で良さそうに見えたが、後に最悪だったと分かった。

グングン上り、上塚コル着。風は無かった。一本、南面に滑降。雪は悪かった。名称も分からないような悪雪。要するに、前回、カチンカチンだった氷が緩み骨で言えば、骨粗鬆症の様な雪。

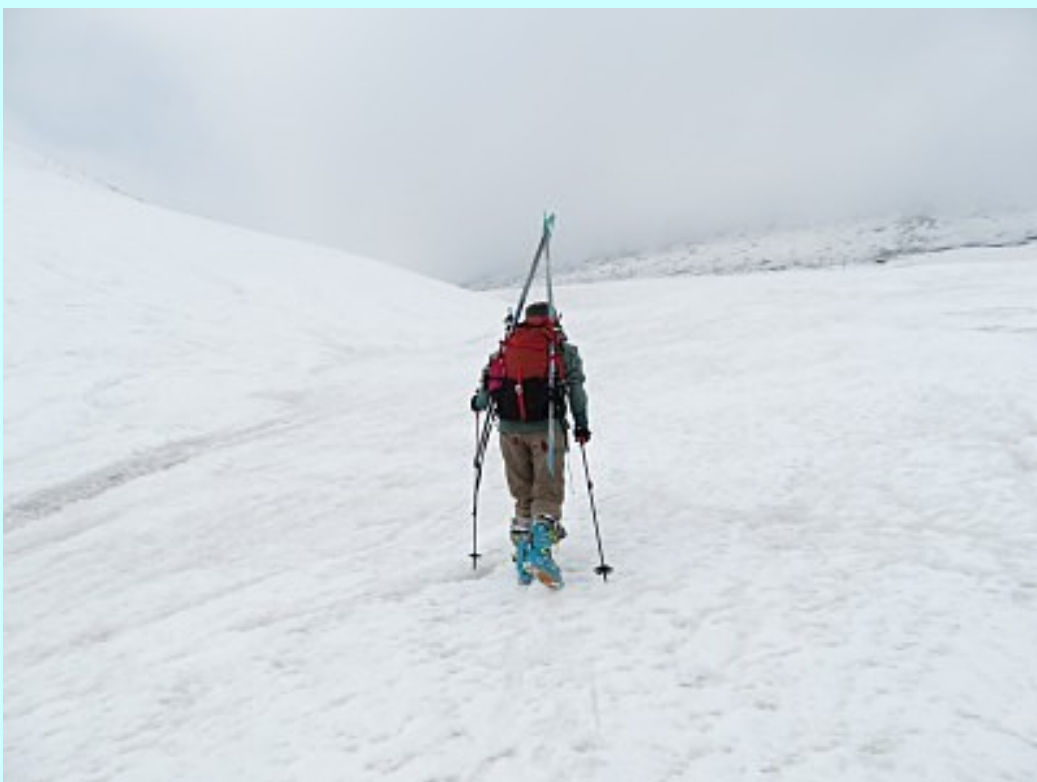
乗るとボロボロの骨のように、ガサガサと崩れてしまう。これではスキーにならない。それにしてもこの荒れようは尋常でない。あまり見られない状態だった。100m滑降してコルに上り返す。

コルから北面を滑降。北面は南面より良かったが、前回より悪い。怪我が怖くて突っ込めない。イイ雪を探して上塚下に移動するが、変わらなかった。下から一人上って来た。本日、唯一の登山者。人を探しているようで、「〇〇の方ですか??」と聞かれた。

下塚下まで滑り昼食。風がなく寒くなかった。富士山の雪も今回で賞味期限か。今期も雪が少なく十分、楽しめなかった。いよいよ、他山に転戦しないとダメだろう。

昼食後、二合目駐車場下まで滑る。今回、私は全く楽しめなかったが、相方は、「良かった、よかった。サイコーだった」を連発。このような現象は多々ある。要は「体重の違い」なので、滑りが違うようだ。

概ね、私が良い時は、相方が悪い。私はハード雪がイイが、相方はモナカ系が得意。スキーは、こんな面白さもある。





3月10日(木)晴・11/40

[返信・引用](#) [編集](#)
[集済](#)

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年3月10日(木)05時10分7秒

今、

庭の「クリスマス・ローズ」が見事。
長い冬を経て、ようやく咲いた。

・・・クリスマスローズはキンポウゲ科の宿根草で、学名をヘレボルスといいます。原種系のヘレボルス・ニゲルは12月半ばから2月くらいまで花が咲きます。クリスマスローズとは、そのニゲルを指した名前で、ちょうどクリスマスの頃に咲くバラのような花、というのが名前の由来・・・ネット

ネットでは、12月半ばに咲くとあるが、そんなに早く咲くのもあるのか??室内で温かければOKかも。園芸店で見ると、様々な色がある。

結構、高価だ。
花が下向きで謙虚??
しかし、花が大きくて見事!!



3月9日(水)晴・11/40

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年3月9日(水)06時42分39秒

今日は、3月度・伊豆巡礼だったが、コロナで中止・延期。今年は、巡礼・ウオークも中止の連続。残念だ。

つづき

Eさんの「降りたい」気持ちを聞いて、我々二人は撤退を決めた。この風・体力・睡眠不足を考えたら順当だろう。無理をすれば、行けないことはなかった。

ただ、「無理をすれば、道理は引込む」。また来れば良い。過去、無理をして、良い結果ばかりではない。ただ、I君には行って貰った。彼なら全く問題はない。以前も横岳・杣添尾根で山頂まで15分単独で往復した。その時も天気は悪かった。

下山が決まれば、ドンドン下る。振り返れば、風は相変わらず凄い。頂上は「雪煙（せつえん）」がプンプン上がっていた。大きさに言えば、エベレストの雪煙の様だった。

途中でアベックに会った。「黒百合ヒュッテに行くに、西天狗を越えなければ行けないでしょうか？」と聞いてきた。今夜、宿泊予定という。この天気です・東天狗を越えるのは厳しい。無理をしなければ良いが・・・。

目を凝らすと、3名の奮闘状況が確認できた。第一高点まで下ると、不意にI君が現われた。思ったより速かった。やっぱり若く馬力がある。ホッとしたら、急激に空腹を感じた。

風が弱い樹林帯で遅い昼食。12時45分だった。I君と私はカップ・ラーメン。Eさんは、お稲荷さんを食べた。美味しかった。山の食事はサイコー。今回はビアはなし。

食後、更に下り唐沢鉱泉着。屋根の雪庇が垂れ下がり、今にも落ちそうに驚いた。トーキョーの若い衆が3名いた。我々より1時間早く上り、黒百合ヒュッテ経由で周回してきたという。

産直で野菜を仕入れ帰途に就いた。今回、2名は登頂出来なかったが、イイ山だった。また、行こう。

ど〜が〜（動画）観れます・・・

<http://susono-reihou.babyblue.jp/0000-14.mp4>

おわり





3月8日(火)晴・10/35

[返信・引用](#) [編集](#)

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年3月8日(火)05時41分41秒

つづき

第一高点で完全装備をして、更に上を目指す。樹林が減って風が強い。ひょっとして今日は「春一番」かと思ったが、翌日の報道では、そうではなかった。だが、空は妙に濁っていた。これは、恐らく「黄砂」だろう。

そこで同行者の「ピッケルがない」に気が付いた。先ほど着替え時、ピッケルをザックにしっかり付けなかったらしい。Iが「戻って探しに行きましょうか」と言ったが、同じコースを下るので、不要と答えた。

しかし、後で考えれば「取りに行くべきだった」と反省。上部でピッケルを使う場面になったら、どうするか??である。ここは少々時間を惜しまず、対応すべきだった。実際、Iは山頂下でストックは止めて、ピッケルで上っている。

第二高点を過ぎて、いよいよ最後の岩稜帯に掛かる。前に若い衆が2名いた。ラッセルの礼を言う。何となく、山慣れしていない感じだった。岩稜帯に入ったが、本格的雪山初参加のEさんが、やや疲れた様子。

聞けば、「眠い」と言う。昨夜、就寝したのが12時近くだった様子。その上、出発時間を1時間間違え、4時に合わせてしまったようだ。睡眠時間が2.5時間。それでは眠い訳だ。

我々も、八ヶ岳登山は、何度経験しても早朝起床で厳しい。そもそも長泉5時発だから起床は4時半。前夜は、時間が気になってなかなか寝付けないもの。決して完ぺきではないが、そこは経験の差か。

しかも、Eさんの雪山装備が100%でなかった。それも問題だった。GPSの標高は2561m。山頂まで、あと「85m」だった。夏なら20分。しかし、Eさんは、「ここで降りたい」と言った。

つづく





3月7日(月)晴・11/30

[返信・引用](#) [編集](#)

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年3月6日(日)17時04分21秒

土曜日は、

八ヶ岳・西天狗岳(2646m)西尾根でした。コースは、唐沢鉱泉～西尾根～西天狗岳往復。天気＝晴れ・黄砂・爆風。標高差＝786m。参加＝3名。

当初、計画は、編笠山～西岳だった。ただ、天気が良さそうなので西天狗岳に変更。懸念された林道は、ネットでは3月3日に入ったとあった。それから大きな天候の変化はないので、通行できると判断した。

別荘地から唐沢鉱泉に向かう。最後の夏沢鉱泉分岐に沢山の車があった。ここから歩く方もいるらしい。事実、その先に一人歩いている方が居た。しかし、唐沢鉱泉まで約4kmある。これは大変だ。

林道を慎重に進む。轍があるので、ハンドルを取られる。途中、何故か横に滑り変な格好で脇にハマってしまった。危ない所だった。2020年3月に赤岳山荘への林道で大きな事故を経験しているだけに、雪道はトラウマになっている。大事にならなくて良かった。

標高約1860mの唐沢鉱泉着。車は10台ほど。雪はまあまあ。昨年、宿泊した唐沢鉱泉はクローズ。だが、オーナーは、時々は来るようだ。8:26発。寒くなく温かい。ただ、天気予報は強風と黄砂予報だった。

通いなれた登山道を峠に向かう。夏はゴロタ石で歩き難いが、雪がそれをなくしていた。だから、雪があると夏時間より早い場合がある。特に下りは快適に下れる。

枯尾の峰分岐から風が出て来た。予報通りだった。風がタンネの森の梢を揺らす。トレースはバッチリあるので快適に上る。空が明るくなったと思ったら、第一高点だった。

大展望だった。風が強く空が濁っている。あれは黄砂だろう。ヤッケの上下を着て、目出帽を被って完全装備を整えた。

つづく





3月4日(金)晴・13/42

[返信・引用](#) [編集](#)

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年3月4日(金)06時29分18秒

つづき

第二東名工事現場に来ると、長い長い鉄製の階段が続き参った。しかも、下りだけでなく上り返しがあった。一同、長い階段に、上りでなく良かったの感想。

尺里集落に下った。2020年、ここで「猪の放し飼い??」を見て驚いたが。集落のババさまに聞いたら、「最近は何処かに行ってしまった」とのことだった。

近くに、「地域活動団体ミーク」が、JA全農から提供された「わたぼく牛乳」を無料で配っていた。ちょうど、喉が渴いた時だったので、有り難く頂いた。配っていた民家は、昔ながらの「田造り」住宅で立派なものだった。

暑い中、漸く山北駅着。電車の時間まで1時間ある。予定通り??駅前で喉を潤す。

前回、居酒屋「ポップ駅前屋」に寄った。先ほどまで、お客がいたようで、暖房がモーレツに暑かった。女将があまりイイ顔をしなかつたので、前回なかった隣の隣の居酒屋「YAMAKITA・バル」(スペイン語で居酒屋の意)に入った。

若い衆がやっていたが、感じは良かった。

ビア大ジョッキが700ー、つまみの「モツ煮込み」が300ー。ピ

ア大ジョッキは、
最近ない「正しい大ジョッキ」で嬉しくなった。「モツ煮込み」は、美味しかった。

井上君が気付いたが、店は居酒屋になる前、薬局だったらしく、店内のガラス張りの「調剤室」に、ズラーと銘柄の一升瓶が並んでいた。これでは、「調酒室」だと笑ってしまった。

ここから選んで飲めるのだろうか??今回は、久しぶりに若い衆とのハイキングで、いろいろ刺激を受け楽しかった。また、参加してくれると嬉しいね。また、行こう!!!

おわり





3月3日(木)晴・14/46

[返信・引用](#) [編集](#)

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年3月3日(木)06時47分37秒

つづき

峠から山頂までの50分は厳しい上りだった。とても、800mの山にみえない。

早くも上から多くの登山者が降りて来た。中には、ダックスフンドを連れて来た家族もいた。途中で休憩。全員が揃った。

最後の階段を上る。上から動画を撮る。N君が苦しそう。手製の杖を二本使い頑張る。

S君は若いだけに問題なかった。ITさんも問題なかった。Hちゃんは、ピースサイン。カヤトを抜けると山頂だった。まだ、11時前だったが、多くも方が昼食だった。

期待の富士山は見えなかった。しかも、何やら黒雲が纏わりついていて。「多分、大野原の野焼きかな」と思ったら、やっぱり、翌日の新聞に掲載があった。西風に乗って焦げ臭かった。

我々も一角を陣取り昼食。二人は「鍋焼きうどん」だった。好天で温かいので、ビアをガンガンやった。Hちゃんも「ツー・ビア」行ってしまった。(´艸`)

私は、このところ「鍋焼きうどん」が続いたので、味が薄い優しいカツ

プ・ラーメンと手製のサンドイッチ。レタスは畑のモノだ。
食事中も次々と多くの方が山頂に集まって来る。凄い人数だった。人気がある山なのだろうか。

コロナで皆さん、外出に「飢えて」いるのかも。ハイキングは、比較的「密」ではないので、「飢えを凌ぐには」最適だろう。S君が「箸を忘れて」カップ・ラーメンを食べれなかった。余分があったので上げた。早く言ってくれれば良かったのに。

Hちゃんが、N君に「今日は、どうでした??」と盛んに聞いたが、「まだまだ早い。下りが半分残っている」と混ぜっ返した。集合写真後、Hちゃんが、「ランニング終了後の足揃えポーズを三角点でやりたい」と希望したので、皆でポーズを取った。

時間は早かったが下山。まだまだ、下から沢山上って来る。昼食時間は、とっくに過ぎているのに、食事を摂らずに上っているようだ。空腹は、「シャリバテ」で本当に動けなくなる。適当に食べて上った方が良い。

つづく





3月2日(火)曇・14/50

[返信・引用](#) [編集](#)

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年3月2日(水)06時41分57秒

つづき

急なコンクリの林道を上る。周りはミカン・ウメの畑が続く。N君が「ゼ〜ゼ〜・ハ〜ハ〜」で、木の枝で杖を作った。これは効果があり、少し楽になったようだ。やがて、入口の看板に会った「最明寺史跡公園」着。

池がニッあり、トイレが完備。管理のジジさまが、派手な音楽を掛け、庭掃除をしていた。集めた枯葉を燃やし、煙がイイ感じで流れていた。「河津桜・・・」が、どうのこうのと言っていたが、我々が静岡の人間と分かったのか?と思いきや、公園に河津桜があるらしい。「開花まで、もうじき・・・」と言いたかったようだ。

入口の看板にあった「松田山」は付近にあったらしい。「らしい」というのは上りたかったが、分からなかったからだ。帰ってネットで見たら、報告書は「分かり難かった」とあった。

公園を抜け梅林を上る。先日上った、矢倉岳が見えた。上り切れれば、標高約500mの峠。峠から約100m下って高松集落着。眼下に川村小学校分校が見えた。学校は平成22年3月閉校になった。道標があつて、尺里峠(ひさりとうげ)まで1時間10分とあった。

林道を大きくトラバースして行くと、漸く見覚えがある山北駅からの林

道に出た。再び林道を行くと、尺里峠着。ここまで3時間弱だから、低い山にしては長い長い。それでも、初参加者は、何とか、まあまあだった。ここで大休止。峠上は、「第六天」と呼ばれている。「第六天」とは・・・

第六天は欲望の世界に生きる魔王です。しかし、大きな力をもつ仏法の守護尊として、人々に信仰されてきました。お釈迦さまがお悟りを開いたとき、その直前に「降魔（悪魔を降伏させる）」とよばれる出来事があったと伝えられています。

お釈迦さまの6年間の苦行の後でした。断食をはじめ、厳しい苦行で衰えた身体を尼連禪河という川で清め、静かに樹下に坐していたときのことです。そこへ「マーラ」と呼ばれる悪魔が近づき、お釈迦さまに誘惑を仕掛けました。おいしそうな食べ物をもりだくさんに出現させたり、美しい女性をなまめかしく見せたりして、心を乱そうとしたのです。

金銀や宝石も次々と現わしましたが、効き目はありません。誘惑が通じないと見た悪魔は、今度は肉食獣や盗賊の群れ、攻めよせる軍勢を出現させて恐怖を与えようとした。しかし、お釈迦さまがたじろぐことはありません。悪魔はついに降伏し、仏法を守護する神になったということです。この悪魔マーラこそが第六天です・・・ネット

つづく





3月1日(火)曇・12/45

[返信・引用](#) [編集](#)

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年3月1日(火)06時02分42秒

今朝のヤフーに石川県労山の仲間、形屋さんの記事があった。

「高さ50メートル」氷雪ドーム 白山・百四丈滝で金沢・形屋さん
「降雪、寒波で成長」3/1(火) 5:01 配信

北國新聞社

晴天の下、白山山頂を目指す登山者＝2月26日、白山の加賀禅定道
(形屋さん撮影)

石川県の白山中腹にある「百四丈滝（ひやくよじょうのたき）」

(落差 90 メートル) で、凍った水しぶきと雪によって滝つぼの周辺にできる「氷雪のドーム」が今冬、例年より大きくなっている。2月26日に日帰りで白山を踏破した形屋利幸さん(51) =金沢市松村7丁目= が撮影し、「ドームは高さ50メートルほどあった。厳冬期に登った4回のうち今年は最も大きい」と驚きを語った。

【写真】百四丈滝にできた巨大な「氷雪のドーム」=2月26日

●17時間掛け、日帰り踏破

形屋さんによると、氷雪のドームの高さは例年20メートルほどだが、今冬は滝の半分以上に積み上がり、極寒の世界に神秘的で壮大な造形となっていた。2月の降雪と寒波の影響と推測している。

滝の岩肌から垂れ下がるつらは先端が大きく成長した氷雪のドームに埋もれる形となり、長さは例年の半分の10メートルほどと短かったという。

形屋さんは26日午前0時に仲間2人とスキーを履いて白山一里野から加賀禅定道を登り、同11時ごろに頂上に到着した。山頂も例年より積雪が多く、白山比咩神社奥宮はほぼ雪に埋まっており、屋根の高さの場所で参拝した。

当日は晴天に恵まれたものの、気温は氷点下10度以下で強風にも悩まされたという。帰路で百四丈滝を見学し、午後5時に一里野に着いた。

17時間かけて往復36キロを踏破し、雪の世界を楽しんだ形屋さんは「普通は見られない景色を楽しめて達成感がある。今後も続けたい」と話した。





2月28日(月)晴・10/40

[返信・引用](#) [編集](#)

[集済](#)

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年2月28日(月)05時32分13秒

土曜日は、

丹沢・高松山(802m)ハイキングでした。

第四土曜日はハイキングの日。井上会員の奥様と会社から若い同僚が2名参加で盛り上がった。当初は、高松山・西尾根のバリを考えたが、一般参加の方の力量が不明で一般コースにした。ただ、いつものコースでは、面白くないので、初めて東山北駅から松田山経由コースを選んだ。

初めて東山北駅で下車。驚いたが、駅舎なるものがない。勿論、無人駅。ホームから直に外に出る。雨嵐の時は、どうする??すぐ外にトイレがあったが、これはJRのものでなく、山北町の建屋だった。新しい駅なので、経費削減だったのだろうか。

トイレを済ませ自己紹介。会員のITさんは、久しぶりの参加。昨年、旦那様を無くした。介護が長かったので、なかなか山は行けなかった。自身も足を捻挫し、ようやく癒え、参加出来るようになった。

Hちゃんは、会員のI君の奥様。51歳。昨年の富士山・キノコ狩り以来の参加。土日が仕事なのでなかなか参加出来ない。今回は、「マンボウ」で参加出来た。旦那様とは、四国・徳島で知り合った。「阿波踊り」が得意。

N君は45歳。I君の会社の同僚。出身は石川県。180cmに100kgの堂々たる体躯。元々は、75kgだったが、単身赴任が長く、不規則な生活で太ったという。山登りは、どうなるか行ってみないと分からないようだ。

S君もI君の同僚。33歳。富士市に居住。登山はやっていないが、ア

ウト・ドアは好きで、ガスコンロ・調理器具など持っている。独身で彼女を募集中。今回のメンバーでは、一番若く元気。

ほか、会員のKさん・I君・私で全部で7名。R246を東に向かい、「松田山入口」のバス停から山に入る。最初から、急登が始まった。N君、早くも激しい息づかいで先が心配された。

つづく





2月25日(金)晴・10/40

[返信・引用](#) [編集](#)

投稿者: たかチャン 投稿日: 2022年2月25日(金)06時18分43秒

つづき

冬富士山登山は、現在、原則禁止されている。しかし、訓練などで上る経験が必要な場合はある。その場合、どうしたら良いか。一定のルールを設ける。

1. 事前の書類審査・・・目的・登山経験・装備など問題なければ許可。問題があれば登山禁止。許可があり遭難救助の場合の経費は、税金で賄う。
2. 許可がなく登山で遭難の場合は・・・捜索救助費用は自己負担とする。現在は、税金で賄われている。捜索費用は莫大。捜索は一人1日安くても5万。ヘリは、1分1万と言われる。
3. そもそも許可が必要か・・・本来、登山は自由。国内を移動するに、いちいち許可が不必要と同じこと。従って、登山届の必要はあるが許可はおかしい。ただ最近、余りにお粗末な事故・遭難も多いことは事実。その辺りの落としどころを如何にするか。
4. 駐車場を閉鎖しても問題は解決か・・・否である。事実、我々も山岳スキーで入山している。駐車場閉鎖前に議論を重ねる必要があったはずだ。

ど～が～（動画）観れます。

<http://susono-reihou.babyblue.jp/0000-10.mp4>



2月24日(木)晴・9/40

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年2月23日(水)17時01分59秒

一昨日は、

富士山・ニッ塚で山岳スキーでした。コースは、洞門～上塚下～洞門。
天気＝風少し快晴・低温、標高差＝570m、参加＝2名

洞門から出発。ただ、問題があった。今まで駐車出来た洞門の民有地が
駐車出来なくなってしまった。「出来ない」は、物理的に無理で、鉄パ
イプのガードで入ることが出来ない。

御殿場方面で冬富士登山の場合は、太郎坊が入り口になる。夏は御殿場
口二合目に大きな駐車場がある。ただ、冬は閉鎖で入れない。しかし当
然、冬登山したり、今回の我々のような山岳スキーヤーもいる。

その場合、駐車はどうか。今までは、洞門脇の民有地に5～6台置
けた。しかし、このところ冬富士登山遭難が多く。規制が入った。ただ、
駐車場を閉鎖したら遭難が減少するかは分からない。タクシーで来て上
る人もいるだろう。だから、駐車場閉鎖で遭難を減らそうは、極めて短
絡的だ。

私ならどうする??冬富士は私も若いころは何回も上ったが、登山希望
者は、上らせればいい。冬富士登山は、日本で最大標高差・最大標高の
絶対的の山。ヒマラヤを目指す者など国内で出来る訓練に効果的な山
だ。だから、規制はしない方が良く。ただし、条件はある。(明日、語
ろう)

これを施したのは「静岡県山岳遭難防止対策協議会東富士支部」だった。
これは、どうやら県の機関のようだ。何故か。取材をしていないので明
確ではないが、このところ多発している遭難対策と思われる。

行政は、国民の安全を最優先に考える。トレーラーの事故が多発すれば、
すぐ規制かかかる。電車の安全が妨げられれば、対策が講じられる。今
回もその類だった。

つづく



2022年02月22日(火)晴・9/31

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年 2月22日(火)06時07分0秒

今日は、

2022年02月22日。あと200年後は、更に素晴らしいが、ま、冥土ですね。

猫の日とか。先日、BSで岩合光昭監督の「ねことじいちゃん」は、面白かった。小林 薫は、イイね～。

昔、岩合光昭の奥様の日出子さんの「アフリカ・ポレポレ」を読んだ。これも面白かった。アフリカには、「肉食の蟻」がいて、ベットの回りに重油を撒いて寝るとあったが驚いた。

西郷輝彦が亡くなった。私と同年。イイ男だったが残念。歌も上手かった。結構、硬派で強面だった。三女を溺愛。娘のキスシーンは、許可しなかったとか。

ああ、最後に本日は、私の75歳の生誕日でした。バースディ山行で「富士山スキー」を予定。あと、5年。先日、富士山で会った白井さんの如く、80歳まで楽しもう。

同時に、いつも刺激をいただき、皆様に感謝・多謝・深謝です。ヽ(^o^)
J

白井さん・・・ <http://susono-reihou.babyblue.jp/kiroku-7-69.html>





2月21日(月)晴・10/38

[返信・引用](#) [編集](#)

[集済](#)

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年2月21日(月)06時32分56秒

報道によると

八方尾根・無名沢で雪崩に巻き込まれた2名の1名が心肺停止とあった。八方尾根から唐松岳に登頂し、無名沢をスキーで滑降中という。

先日、知人が東北の虎毛山スキー滑降時、谷筋で大きなクラック（裂け目）にハマって難儀したとあった。クラックは、風下に出来やすい。
フンワリ積もった雪は、要注意。

昔、北アルプスの笠ヶ岳に年末上った。笠ヶ岳登山は普通、東面から上る。冬はモーレツな季節風で、東面にフンワリ雪が積もる。その当面は、大きなクラックの連続だった。

上っていて、ボコボコ音がしたり、気持ち悪くて堪らなかった。途中、テントで泊まったが、雪がフカフカで極めて不安定。いつ雪崩れるか、不安な一夜を過ごした。

<http://susono-reihou.babyblue.jp/01-353.pdf>

八方尾根も東に延びる尾根。冬は完全な風下。稜線はモーレツな風が吹く。八方尾根に樹木が少ないのがその証。2020年年末に上った時、頂上まで標高差36mで撤退した。原因は風。

吹き飛ばされそうな風だった。標高差36mは、夏なら10分程度。それが上れなかった。そんな風が吹く山だから、風下はフンワリ積もった雪で危険が孕む。要注意である。

<http://susono-reihou.babyblue.jp/000-40.pdf>

今後、気温が次第に上がって来る。雪が落ち着くまで気が抜けない。





2月11日(金)晴・87/36

[返信・引用](#) [編集](#)

[集済](#)

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年2月18日(金)06時32分17秒

15日のつづき オリンピックは素晴らしい。いうことなし。

上塚を降りたら、二人の年配の方に会った。

丁度、休憩で話が弾む。年齢が多い方の靴は「革靴」だった。

「革靴」は、重いうえ、防水が弱くて、足が冷える。

私も長年履いていた。現在、持ってはいるが履いていない。わざわざ、履いているのは、愛着があるのだろう。靴の踵の部分に金具があった。聞けば「スキー用」といった。

「革靴」スキーは、物凄く難しい。私も駆け出しのころは、山岳スキー用の靴を買えなくて、ドイツの革靴「ヘンケ」で滑った。富士山も滑ったが、兎に角、くるぶしが安定せず滑れない。

それでも、1976年3月、尾瀬でスキー・ツアーを敢行。一応、三平峠から大清水まで滑った。記録には、「まあまあだった」と残されている。以前、乗鞍岳で「カンダハー」で滑ってる方がいた。当然、靴は革靴だった。もの凄く美味い方で驚いた。

・・・カンダハー（Kandahar）は、かつて使用されていた、スキー靴をスキー板に取り付けるための器具。ビンディングのひとつ。日本へのスキー導入初期にはビンディングとは呼ばず、カンダハー（カンダハ）と呼ばれていた・・・ネット

年配者の方は、相模原の白井源三さんだった。3日後の15日に「80歳」といった。山と渓谷の「分県ガイド・神奈川県」の共同著者でもあった。イイ年齢になっても、依然として、山への情熱が尽きないことに敬服。私も80歳までは頑張ろう。

三辻から幕岩経由で下山。ラッセルが皆無で下りも膝まで潜った。重い雪で膝への負担が大きかった。無事登山口着。久しぶりの大雪富士山で大いに満足でした。

ど〜が〜（動画観れます）

<http://susono-reihou.babyblue.jp/0000-7.mp4>

おわり





2月17日(木)晴・10/32

[返信・引用](#) [編集](#)

[集済](#)

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年2月16日(水)17時36分3秒

つづき

池を一周する。東に巨大ブナが佇立する。
幹はそれほど大きさを感じないが、兎に角、枝ぶりが凄い。
何て表現したらイイか。こんな枝ぶりは余り見たことがない。

仲間の二人に幹に抱き付いてもらい写真撮影。
いつまでも元気にいて欲しいブナである。
再び池を巡って下山。下りは、雪がホドホド乗っているのでスイスイ。

あっという間に林道着。時間があるので、林道路上でお茶会。
寒くて上で飲めなかったビアをいただく。美味しかった。
少しお腹を満たして、再び下山。ミツマタの花が満開だった。

駐車場着。16時だった。温泉の話もあったが、湯冷めするので、
大人しく帰った。今回は、想定外の降雪があったり、その後、感動の
晴天が訪れたり、面白かった。

また、Aさんに「今期唯一のバレ・チョコ」をいただいた。(;'д`)
冬の天城は素晴らしい!!!

ど〜が〜（動画）こちら。

<http://susono-reihou.babyblue.jp/0000-6.mp4>





2月16日(水)晴・10/44

[返信・引用](#) [編集](#)

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年2月16日(水)07時04分3秒

昨日は、

七施会（「分け隔てなく施す」という意味で使われる仏教用語「布施」には、大きく分けて次の3つがあります。

さらに、それができない場合の布施として「無財の七施（むざいのななせ）」というものがあります。

これは、「地位や財産がなくても、心がけ1つで誰でもいつでもできる7つの布施」のことです)

で、天城・八丁池でした。コースは、水生地下～林道～下り八丁池歩道～八丁池～水生地歩道～水生地下。天気＝曇り～雪～晴れ、標高差＝約600m、参加＝4名

当初、一泊で八ヶ岳・坪庭だったが、天気が悪く、日帰り山行に変更。坪庭は、「長野割り」で、諏訪温泉に5000円割引で泊まれたが残念だった。天城大橋から出発。天気はまあまあ。林道の雪は少なかった。

林道から下り八丁池歩道に入る。ここからトレースは無かった。ただ、雪は締まって足首程度。辺りは、ヒメシャラ・ブナの巨木が続く。ハッキリしない天気だったが、俄かに雪が降って来た。雪はベチャ雪だった。雨具を着込み進む。

降雪とガスの中、峠を越えると漸く八丁池。だが、ガス・ガスで何も見えない。

雪は小降りになったので、馬酔木の木陰で昼食。鍋で「うどん」を煮た。モーレツに寒かったので、温かい「うどん」は、美味しかった。

夢中で「うどん」を食べていたら、次第にガスが切れ、温かい日差しが射して来た。やややや、これは何だ、奇跡だ。やっぱり「七施のご利益」か。青空の元、八丁池は見事だった。八割くらいの氷結。岸辺の凍っていない部分のグラデーションが美しい。

誰か一人、氷上で遊んでした。我々も遊びに行く。氷はシッカリして怖さはない。初めて凍った八丁池に訪れた二人は大いに喜んだ。時間があつたので、池を一周する。池の東にあるブナの巨木を見に行く。

つづく





2月15日(火)曇・8/47

[返信・引用](#) [編集](#)

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年2月15日(火)06時02分46秒

つづき

幕岩から三辻に向かわないで、沢を渡り、対岸に上がる。
ここは、昨年秋、キノコを採ったところだ。上は見事な雪原が広がっていた。富士山頂から最下部まで、ベッタリの雪。近年、これは珍しい。

ザックザック上る。動画を回す。ニッ塚・上塚を何人が上っていた。
なかなか、イイ絵だ。大きなザックの若い単独男性に会った。全国の山を回っているらしい。上高地から来て、昨夜は下塚付近で泊まったという。これから御殿庭に向かうといった。

我々も続く。上りは大した事はなかった。簡単に上塚着。先々週、スキーで来て、吹雪かれた。今日は無風快晴。ちょっと、早かったが昼食。先週に続き「鍋焼きうどん」を作る。

八丁味噌の美味しいものだ。昼食が終わるころ、スキーヤーが2人来た。板はテレマークだった。今回、我々もスキーを考えたが、この重い雪では楽しくないで止めた。

2人は夫婦だった。50歳くらい。しかも、長泉町納米里だった。身近に登山・スキー愛好者がいた訳だ。ただ、我が会は知らなかった。最近、沼津の黄瀬川から引っ越したという。理由は、昨年の水害があった

からという。30分程話して別れた。会には興味ないようだった。上塚を下る。

三辻への分岐で、二人の年配者に会った。一人の方は、何と80歳。相模原の方で、有名な方らしい。

つづく





2月14日(月)雨・11/40

[返信・引用](#) [編集](#)

投稿者: たかチャン 投稿日: 2022年2月13日(日)15時07分17秒

土曜日は、

富士山＝ニッ塚・上塚（1929m）でした。コースは、須山登山口～須山・お胎内～幕岩～上塚～三辻～幕岩～登山口。天気＝無風・晴、単純標高差＝569m、参加＝3名

一昨日、南岸低気圧通過で各地は大雪。他山の選択もあったが、交通事情を考え、結局、富士山にした。御殿場から周遊道の除雪は完璧だった。しかし、須山登山口の駐車場は膝上の雪で入れない。

登山前にまずは駐車場確保の除雪作業だった。除雪は、想定したので、スコップは用意してきた。しかし、仲間1名はスコップなし、1名はオモチャみたいなスコップで話にならない。

それでも何とか駐車スペースを確保し出発。トレース（踏み跡）は全くないので、ワカンジキを履く。ワカンを履けば、雪は脹脛くらい。真っ新な雪面に新しい足跡を残して上るのは快適だ。

天気は、まずまず。雪面に伸びる樹木の影が美しい。須山・お胎内を通過。ここからはトレースがあった。トレースは、水ヶ塚からのものだった。恐らく、須山登山口が駐車できないので、水ヶ塚から来たのであろう。除雪までする輩はいない。そもそも、除雪道具も用意していないであろう。

幕岩で休憩。計画は、ここから三辻に上り、宝永山2352m峰を目指す。しかし、今日のラッセルを考えたら時間が掛かり無理と判断し、ニッ塚・上塚に変更した。

この判断は、正解だった。下山は、上塚から三辻経由にしたが、下山にも関わらず、膝上のラッセルで非常に難儀した。結局、この日、ここを歩いたのは、我々3名だけだった。

つづく





2月11日(金)曇・12/40

[返信・引用](#) [編集](#)

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年2月11日(金)06時55分36秒

先日、

矢倉岳に上って、駿河小山に下山した。
下谷集落に来ると、集落の家族が「ダイコン出し」をいていた。

この「ダイコン出し」とは、本来の「ダイコン堀り」でなく、
育ったダイコンを抜いてしまい、畑に埋めたものを出す、ということ。

これは、主に寒冷地でダイコンを保存する方法。
寒冷地は、気温が低いのでダイコンが痛む。それを防ぐため、育った
ダイコンを抜いてしまい、地中に埋めて保存する方法。

以前、秩父巡礼時、民宿のオバサンもそんな話をしていた。
私も真似をしてやったことがある。
長泉は、それほど極端に寒くないので、効果はハッキリしない。

ただ、余り「旨くなかった」ような記憶。
野菜の保存は、なかなか難しい。



2月10日(木)雨・11/35

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年2月10日(木)04時15分41秒

今年の

天城・八丁池。

先日、静岡新聞に全面氷結と掲載されていた。

12月下旬に最初の全面氷結を確認したという。

新聞の写真は、新聞社のへりから撮影されたもの。

真ん中に4名の人物が写っている。

なかなか、キレイな写真。

写真を見る限り、全面氷結の感じがする。

八丁池は、水深が浅く凍り易らしい。

大昔、行った時、ピッケルで穴を開けたら氷は20cm位だった。

今年は、寒さが厳しいので、諏訪湖も「御神渡り」が期待されたが、寒さはOKだが、季節風が強すぎて、ダメだったようだ。

自然現象も、なかなか難しい条件があるようですね。





2月9日(水)曇・11/30

[返信・引用](#) [編集](#)

[集済](#)

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年2月9日(水)06時44分56秒

今日は、
2月度・伊豆巡礼でしたが、「コロナ」で中止・延期でした。残念。

先日、新聞に那須雪崩事故で損害賠償の記事があった。
遺族らは「雪崩を予想し避けることが出来た」とし「明らかな人災」と主張している。

学生の講習会・研修会・訓練の事故で、記憶に新しいのが、大日岳雪庇崩壊事故。この事故で2名の学生が亡くなった。

一審では、「講師らが雪庇全体の大きさが25メートル程度あることを予見することは可能であり、講師らの登高ルート及び休憩場所の選定判断には過失があった」として国が敗訴。控訴審で和解が成立。経験豊かな講師であったであろうが、計り知れない、自然の営みに洞察力が欠如していた。

那須はどうだろうか。様々な状況を考えれば、完璧な「人災」である。報道で訴えられたベテラン（何をもって）といわれる、指導者の3名の教師が、どれ程の登山経験があったか不明。

私は、登山経験を計るに、いつも言っているのは、「登山経験年数」ではなく「登山回数」である。新聞などで、遭難者が「登山経験が何年だった」とか表現されるが、あれは全く参考にならない。

一年間、夏に4～5回登山でも、登山経験年数は、一年になる。その点、回数は経験を如実に物語る。勿論、内容にもよるが、少なくとも前者より具体性がある。従って、私の場合、本格的登山は18歳から登山を始めたから、登山年数は56年。

前述のように56年では、やや具体性に欠ける。従って、回数をいえば、明日の登山で、「1967回」を数える。平均で年間35回。一年12ヶ月、毎週上っても48回だから、経験的にはまあまああってところだろう。

那須で、仮に経験・知識・想像力不足の教師が、計画になかった思い付きで、訓練を実施し事故に至ったとしたら、これで亡くなった学生・教師が気の毒で浮かばれない。これは、「運が悪かった」で済む問題ではない。

那須の冬は強風が有名で厳しい山。そこで訓練登山を行うことは、有益な事と思う。ただ、この事故で高校の登山教育が衰退したら一番残念だ。事故を乗り越え、更に前進して欲しいものである。

<https://nasu0327.com/>



2月8日(火)曇・11/37

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年2月8日(火)07時55分32秒

つづき

三角点から緩く下って、リバー・サカワGCの上に着いた。右手は急激な崖だった。予めルートを設定したGPSは、東の小尾根を指していたが、下山後、検証したら、何故か北の尾根を下っていた。

ここからスズ竹の藪が始まった。今まであったブルーの目印もなくなった。強引に藪を漕ぐが先は崖で危険だった。ここは無理をせず、上り返して小尾根を探し下る。

尾根はシッカリしていたが、藪は相変わらずだった。それでも30分程下ると右手に小沢が現われ降り立つ。沢には堰堤が三つあった。脇を下ると右手に田んぼが現われ、農道が伸びていた。

これで藪から解放された。ヤレヤレだった。田んぼにオジサンがいたので、県境は何処か？道はあるのか？聞いたら、「ない」の返事だった。少し歩き駿河小山駅着。丁度、電車が行ったところなので、駅前の食堂でビアを飲んだ。

店のオバさんが話好きで、話し込んでしまった。有名な岩田潤泉（たにいずみ・故人・写真下が岩田さんの看板）は、国語教師で恩師だったと言った。山が好きで昔は、北アルプスにも良く上ったとのこと。何だかんだで、一時間程話し込んでしまった。

電車で帰着。時間があつたので駅前の「満貫」で反省会。飲み過ぎた訳でもなかったが、結構、酔っぱらってしまい。家までフラフラで帰還。反省でした。

おわり



2月7日(月)晴・9/35

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年2月6日(日)17時11分48秒

土曜日は、

箱根・矢倉岳(870m)北西尾根でした。コースは、御殿場線・谷峨駅

～北西尾根～鷹落場～矢倉岳～県境尾根～駿河小山駅。天気＝無風快晴、累計標高差＝約845m、参加＝4名

久しぶりに御殿場線利用の「電車で行く山」。谷峨駅で下車。車掌が敬礼してくれた。駅から畑集落に向かう。人家は少ない。奥に採石場がある。早朝からダンプカーが行き交う。それにしても早い。

畑沢の橋を四つ渡った所が、北西尾根の取り付き。お茶畑を越えて尾根に乗る。檜林の杣道を上る。キレイで歩き易かった。標高点469mから標高点699mに向かう。人工林の中の急登。何故かビアカンが多い。

標高点699mから漸く自然林になった。やっぱり自然林は明るく温かく幸せ。この辺りは北面だが、雪は全くなかった。嫌なグジャグジャの霜もない。極端に雨が無いので、霜が出来る水分が土壤にないのか。

ひと上りで、三角点名「鷹落場(819.08m)」と呼ばれるピーク着。

なかなか、洒落た三角点名だ。展望が良く箱根・丹沢・愛鷹方面が見事。富士山・ニッ塚に意外と雪が多かった。来週は行こう！！

「清水越え」を通過し頂上着。今回は男子四名で、ロクに休憩を取らなかったもので、いつもより30分速い到着だった。高い山ではないが、兎に角、展望は秀逸。4～5名早い昼食を摂っていた。風がなく有難い。

我々も早い昼食。ヤロー四名では食事が速い。20分程で他の登山者に席を譲った。「清水越え」から標高約780m峰から、静岡・神奈川県境尾根を下る。三角点名「大沢(633.53m)」までは快適な登山道だった。

この先に西に向かうピンク・テープがあった。大沢林道に下る道だったかも知れない。三角点から地形は、やや複雑になった。

つづく(日記は、6日に書きました)



2月4日(金)晴・11/40

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年2月4日(金)06時47分32秒

モーグル女子の川村あんりがイイ。17歳??!! 凄い。

昨朝の新聞に那須雪崩事故で損害賠償の記事がありました。遺族らは「雪崩を予想し避けることが出来た」とし「明らかな人災」と主張しています。

学生の講習会・研修会・訓練の事故で、記憶に新しいのが、大日岳雪庇崩壊事故。この事故で2名の学生が亡くなった。一審では、「講師らが雪庇全体の大きさが25メートル程度あることを予見することは可能であり、講師らの登高ルート及び休憩場所の選定判断には過失があった」として国が敗訴。控訴審で和解が成立。経験豊かな講師であったであろうが、計り知れない、自然の営みの洞察力が欠如していた。

那須はどうだろうか。様々な状況を考えれば、完璧な「人災」である。報道で訴えられたベテラン（何をもって）といわれる、指導者の3名の教師が、どれ程の登山経験があったか不明。

私は、登山経験を計るに、いつも言っているのは、「登山経験年数」でなく「登山回数」である。新聞などで、遭難者が「登山経験が何年だった」とか表現されるが、あれは全く参考にならない。

一年間、夏に4～5回登山でも、登山経験年数は、一年になる。その点、回数は経験を如実に物語る。勿論、内容にもよるが、少なくとも前者より具体性がある。従って、私の場合、本格的登山は18歳から登山を始めたから、登山年数は56年。

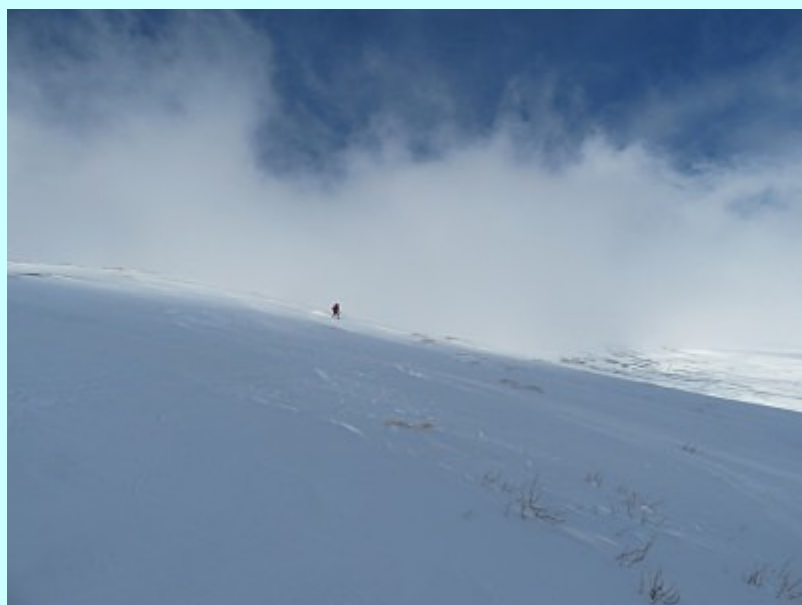
前述のように56年では、やや具体性に欠ける。従って、回数をいえば、明日の登山で、「1967回」を数える。平均で年間35回。一年12ヶ月、毎週上っても48回だから、まあまああってところだろう。

那須で、仮に経験不足であろう教師が、計画になかった思い付きで、訓練を実施し事故に至ったとしたら、これで亡くなった学生・教師が気の毒で浮かばれない。

また、このような事故で高校の登山教育が衰退したら一番残念だ。事故を乗り越え、

更に前進して欲しいものである。

<https://nasu0327.com/>



2月3日(木)晴・11/35

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年2月2日(水)17時16分26秒

門池

には、他に様々な野鳥が見られる。

看板には、コサギ・コガモ・カワウ・カルガモ・キジバト・キンクロハジロ・オオバシ・カワセミ・アイガモ・スズカモ・ムクドリ、など。

キンクロハジロの雄は、黒字に白の模様がある、パンダ鳥の感じ。(写真・上) 雌は、やや地味だ。カモの仲間。

オオバンは、口ばしが白い鳥。雄雌区別は難しいらしい。鳴き声は、ギュー・ギューと鳴く。

ほか、目立つ鳥は、カルガモ・アイガモなど。白鳥が見られると良いのだが、白鳥の場合、シイナ(実が入っていない米のもみ殻)と言われる、もみ殻を食べる。だから、周りに田んぼがないとダメなんだろう。残念だ。

以前、新潟の瓢湖を訪れたが、それは見事だった。長泉には大きな池がない。それも残念だ。

(何方ですか、「三楽」の焼き鳥でイイ、何て言うのは??!! コラ~)
(;´д`)





2月2日(水)晴・10/39

[返信・引用](#) [編集](#)

投稿者: たかチャン 投稿日: 2022年2月2日(水)07時01分0秒
時間が

ある時は、「散歩」をする。

「散歩」と言っても、10kgのザックを背負い、2H近く歩く。

下土狩駅近くの拙宅を出て、本宿の交差点で、黄瀬川の旧橋を渡り、上石田からか門池を一周して、我が、旧国産電機前から、鮎壺の滝吊り橋を渡り、マックス。バリューで買い物をして帰着する。

丁度、イイ汗を掻く。運動不足の時はなかなか良い。
で、門池を回っている時、皆さんがザワザワ。
何かと思ったら、「カワセミ」が、手摺に留まっていた。

先日、伊豆巡礼時、源兵衛川で見たばかり。
この時は雌だったが、今回は雄だった。
ただ、門池はコンクリの護岸が多い。営巣は何処かと思った。

「カワセミが住む門池」なんて素晴らしい。まだまだ、自然が残っ
ているのだろう。余談だが、昔の門池は、デート・スポットで、手漕ぎボ
ート
に乗ったものです。ヽ(^o^)ノ





2月1日(火)晴・9/38

[返信](#)・[引用](#) [編集](#)

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年1月31日(月)17時12分15秒

つづき

昨日、遭難者とおぼしき車両の件を、塩尻署に問い合わせたが、意外にも

「知りません。御殿場署に聞いて下さい」だった。素人の考えだが、塩尻市の市民が富士山で行方不明なのに、塩尻警察署は関知なしだろうか??

御殿場署の情報を塩尻署に流し、遭難者の家族に伝えたりはしないようだ。ここはあくまで、御殿場署が中心のようだ。御殿場署にも連絡しようと考えたが、段々、憂鬱になって連絡しなかった。ゴメンナサイ。

重いスキーを背負って上る。すぐ汗が吹く。天気はハッキリしない。ニッ塚が見えたり見えなかったり。次第にホワイト・アウト状態。風も強くなった。

上塚・下塚のコルに上がり、上塚を目指す。左手・南・駿河湾方面からバンバン風が襲う。

年末の権現岳以来の悪天候だった。指がシビレて来たが、何故か左手でなく、右手の親指が冷たい。やっぱり、親指は突出しているからだろうか。親指を折って温める。凍傷は、意識しないうちに悪くなるので要注意。

風を突いて上塚山頂。ただ、相方のアイゼンが外れて危機一髪。カチカチの氷の斜面でアイゼンが外れるのは危険だ。原因は不明だが、シッカリ見直した方が良い。何とか立て直して登頂した。

北面に移動して滑降準備。このような嵐の中では、テキパキと支度をするのが当然。私は5分程で終了したが、相方が中々終わらない。後で聞いた話では、ストックが凍ってしまい、調整が出来なかったようだ。

ストックの伸縮は、ストックの空洞の中で、駒を開いて固定方式とストックの外を締めて固定する方式がある。前者は冬山に向かないストックだ。相方は今まで、そのことを知らなかったというが、結構、長い間山をやっているが意外だった。

待ちに待ったが、シビレを切らし、見える範囲で滑降。途中で更に待ったが、まだ滑降に移らなかった。それでも漸く滑り出し、上塚を下る。雪は良い所、良くない所が混在。山岳スキーは、雪が一様でないので難しい。相方はコケたりした。

下塚で何処かの年配グループが雪上訓練。近くに滑り会話。ただ、この程度の傾斜で訓練しても、余り有効でない。でも、そんなことは言わなかった。更に滑り、早い昼食。今日は疲れた。風が強いので一本で終わりにした。

上った沢を滑って、二合目下で終了。前回より長く滑った。訓練としてはイイ山でした。

おわり





1月31日(月)晴・11/40

[返信・引用](#) [編集](#)

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年1月31日(月)05時42分36秒

土曜日は、

富士山・二つ塚(1929m)で山岳スキーでした。コースは、洞門～上塚往復。標高差=644m、天気=曇り・強風、参加=2名

このところ雨が少なく、積雪が心配だったが、行ってみる。洞門駐車場から出発。駐車場に松本N0の軽トラックがあった。みれば荷台の枠、フロント・リアバンパー、ヘッドライト、スペアタイヤなどが無い。

ひょっとしたら先週末22日、遭難した方の車か。遭難者は塩尻市の大和浩昭（46）さん。一週間経ても救助された報道がないので、まだ見つかっていないだろうか？しかし、これでは自走出来ない。正に「ハイエナ」。酷いことをするものだ。

難に遭った方、困っている方、弱っている方がいたら、助けるのが「当たり前」だろう。日本もいよいよ、安心して暮らせなくなった。こんな国に誰がした！！

雪は二合目駐車場からあった。二週間前より少し減った感じ。例によってカチンカチンなので、アイゼンを履いた。今回は、ニッ塚下の沢を詰める。ここは滑れそうだった。

下で人の気配がしたら、クロカン・レーサーが抜いて行った。クロカンは、板・靴とも軽く、重量は、我々が使っているアルペンの四分の一くらい。軽い分、スピードは速い。後で交流し聞いたら、この日、5往復で標高差2200m滑ったという。

我々と、ほぼ同じ時間で3.5倍。何をか言わんやである。ただ、クロカンは、我々のように、ニッ塚頂上からの滑降など、傾斜が強い、ハードな雪面には使えない。ま、それぞれ、特徴があるということです。

つづく





1月28日(金)晴・11/42

[返信・引用](#) [編集](#)

[集済](#)

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年1月28日(金)05時14分52秒

つづき

寺を辞して、近くで見事な開花を見た後、R136に下って、道路下の中村集落を歩く。この辺りは、殆ど訪ねることがない地域。静かな静かな集落だった。

中に巨石で築いた石垣を持つ立派な家があった。これだけの巨石を築くのは大変であったろうに。先の軒先に「黒いノリ」が干してあった。以前、下田でも見たモノだった。

触ってみたら、まだ柔らかかった。恐らく今日干したモノだろう。このノリは「アオサ」と呼ばれる、天然海ノリらしい。辺りには、芳醇な香りが漂っていた。乾いているものもあったので、端を摘まんだら、甘くて口の中に美味しさが広がった。

近くに地域のババさまがいたので聞いたら、ノリは今が旬といった。気温が低ければ低いほど良いとのこと。最近、温暖化でイマイチだったが、今年は低温で良かった。

このノリ、帰りに土肥・花時計の地産販売店で売っていた。一枚500ーくらいと思っていたが、やっぱりその通りで、三枚で1、500ーだった！！一瞬、手が動きかけたが、結局、引っ込めてしまった。（´艸`）

後は花時計前の「マルト」で温泉に浸かり帰った。山もイイですが、海もイイですね。

おわり





1月27日(木)晴・14/45

[返信・引用](#) [編集](#)

投稿者:たかちゃん 投稿日:2022年1月27日(木)08時57分5秒

昨日は、

土肥で「土肥桜」観察でした。

富士山ウオークが中止・延期で運動不足解消で出掛けた。

丸山城跡に駐車。バスで恋人岬までと急いだが、タッチの差でバスは行ってしまった。仕方がないので、城跡から逆コースを歩く。

正コースは、2019年1月23日に伊豆ウオークで恋人岬から歩いている。その時も桜は満開だった。土肥桜は、河津より早く咲く稀有な桜だ。

城跡向かいのちょっと上に、西伊豆歩道入り口がある。ミカン畑を縫って上る。天気良ければ、駿河湾と富士山が素晴らしい。各所に桜は開花している。

しばらく進むと立派なトイレがある。左折すると里山園地に向かうが、道路の

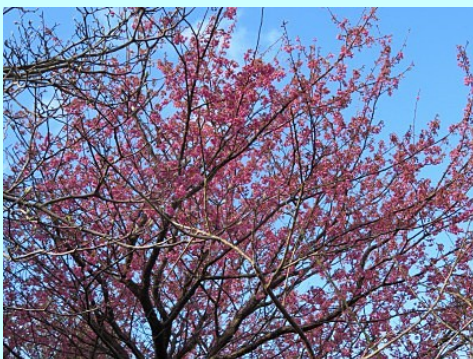
脇には桜が延々と咲いている。更に左折すると里山園地だが、水源地の二本の桜は見事。園地頂上までは、なかなかの上り。

下ってR136を歩くと、左に「最福寺」がある。伊豆八十八札所ではないが、時々、寄らせて貰う。昨日も、本堂階段で休んでいたら、住職が相好を崩して顔を出した。住職は温かい感じの方。結局、30分話し

込んでしまった。

寺を辞して寺前の小道を上ると、大きく見事な土肥桜が二本あった。ここは車ではダメ。歩かないと見られない。桜散策は、ブラブラ歩くことが真骨頂。軽い汗も掻いて心地よい。

つづく



1月26日(水)晴・10/44

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年1月26日(水)05時58分9秒

今日は、1月度・富士山ウオークでしたが、コロナで延期。残念

一昨日は、運転免許証更新でした。優良なので、三島警察署に行きました。警察署って何となくイヤですね。別に悪いことは、していませんが・・・。(´艸`)

書類を記入。生年月日を書いてなく、注意される。まず、目の検査。ちょっと、怖そうなオヤジだった。

覗くが、普通の画面でないような感じ。非常に分かり難い。それほど目は悪くはないが・・・。何かゴジャゴジャして、兎に角、分かり難い。

一番最初の大きいモノだけ、ハッキリ分かったが、以下はハッキリしない。焦ってしまった。ネットでは、

最後に大型第一種免許、中型第一種免許、準中型第一種免許、けん引免許、二種免許の場合です。これらの免許を更新するのに必要な視力は両眼で0.8以上、片方の眼でそれぞれ0.5以上、「深視力」を3回検査して、平均誤差が2cm以内である必要があります。「深視力」とは物体の奥行や立体感を見る視力のことですが、深視力の検査を3回行い誤差が2cm以内の必要があります・・・ネット

とあるが、「深視力」検査だろうか。兎に角、良く分からなかったが、OKだったみたい。教習所の話では、運転免許センターは、かなり厳しいとのこと。次に奥の部屋で左右の視界の検査で終えた。

今度の免許証は、有効年限が西暦表記で有難い。今までは和暦なのでマジックで西暦を書いていたら注意された。和暦は分かり難い。新しい免許証は、優良だが後期高齢者だから期限は3年。

そしてまた、事前検査がある。高齢者の事故が多いからだろう。ただ、面倒で時間・お金も掛かる。お上の意向には、逆らえないか・・・。しかし、写真が毎回、酷くなるなあ。次回は、どうなることやら??!! (;´д`)



1月25日(火)曇・11/39

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年1月25日(火)06時38分7秒

つづき

山頂直下から2～3分で山頂。小さな祠と山頂標識。標識は外れて転がっていた。展望は素晴らしい。下部は風がなかったが、さすがに山頂はあった。

温かければ昼食と思ったが、長いは無用、Iの写真を撮ってすぐ下る。山の風は全くいただけない。下ってすぐ、K姉御が上って来た。途中で車のカギを渡したので、てっきり下山したと思ったが、頑張ってきた。

「山頂は？」と聞けば、何回も来ているので、不要というので下山。すぐその下でKMもいた。KMも山頂は不要というので四名で下山。この場合、待つことも可能だが、30分は待つ。

風がある雪山・冬山で30分待たされるのは辛い。止まると5分でも厳しい。この場合、K、KMが山頂に行きたいと希望すれば、若いIが付き添って上る。2月で後期高齢者の私は、風のない下で待機が理想。

しかし、二人とも冬の蓼科は上っているなので、良しとした。岩場から樹林帯に入る。風が無く温かい。下から先ほど抜いた方々が、ゾロゾロ上って来る。山頂直下のこの辺りが、一番厳しい上り。

樹林帯で昼食。今回も腹が減った。ビア・サンドイッチ・ラーメンで腹を満たす。ただ、今回はビアが何となく合わなくスッキリしなかった。上りで飛ばし過ぎたか。

ちなみに過去の時間を調べたら、

2012年2月・・・3時間30分（天気悪く初心者が一緒だった）

2014年1月・・・2時間40分（好天・4名）

2017年1月・・・悪天候で途中まで

2022年1月・・・2時間30分（好天・4名）

こうしてみると、いつもながら、年齢を重ねても条件が良ければ案外、時間は関係ないようだ。最も、蓼科は短い。3時間以上の山になれば状況は変わる。

下山は雪が多くてルンルン。夏はゴロタ岩が多くて参ってしまう。ただ、下山は、上りで抜いた若い衆に抜かされる。若い衆は荷物が

少ないこともある。下山は軽い荷物が楽だ。

途中でラッセル遊びをしたり、雪穴にハマったり無事下山。「小斎の湯」で温まり、ソバを食べて帰静。雪山イイ。楽しい。気持ち良い。今回もイイ山でした。

おわり





[返信・引用](#) [編集](#)

1月24日(月)12/44

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年1月24日(月)05時27分47秒

今朝は、だいぶ温かい。

土曜日は、八ヶ岳・蓼科山(2531m)でした。コースは、スズラン峠

から往復。天気=無風・快晴、標高差=805m、参加=4名

厳冬期の蓼科山は、2014年以来。今年は雪が多そうなので楽しみ。蓼科山は、標高差が少なく、比較的短時間で上れるので、長泉6:00発とユックリだった。

ただ、遅い分、問題はあった。登山口のスズラン峠の駐車場が狭いのだ。案の定、峠に着いたら、峠下の下の駐車場も既に満杯。数にして5~60台だろうか。

結局、峠の道路駐車場の最後尾に置いた。一応、ここは駐車禁止の看板はない。年末の権現岳と違い、完璧に圧雪された「高速道路」を上る。天気は、このところの低温でなく、無風・快晴。梢に見事な蒼穹が広がる。早くも大汗を掻く。

登山者は、車の数に比例して多かった。ただ、何故か殆どが「アベック登山」で、若い男女が多かった。冬の蓼科山は初心者でも上れる山なので、一見、ビギナーっぽい方が多い。装備も最新のピカピカである。

スズラン峠からの蓼科山登山道は、ほぼ一直線に上る急道。一気に800m上るので、キツイはキツイが登山効率は良い。一時間半後、標高約2200mで展望が広がる。左に南ALPS、南八ッ、右は御嶽山、北ALPS。

若いIとガンガン上る。Kと姉御はややゆっくりペース。姉御は、この所のオーバー・ペースで腰が痛いという。Kは仕事疲れか。森林限界でも風が無かった。冬の蓼科は風の山だ。ここで風が無いのは珍しい。

残りはあと100m程。露岩帯を抜けて頂稜部に達した。若い衆を10名程抜かした。最近、抜かれることが多いが珍しい。ビギナーが多いからだろうか。

この頃になると下山する方が多い。時間は、そろそろ12時になろうとしていた。山頂直下でヤッケを着た。

つづく





[返信・引用](#) [編集](#)

1月21日(金)晴・8/32

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年1月21日(金)06時23分26秒

昨日、15時ころ、急に黒雲が湧いて、雪が舞っていた。
気温は低かったです。

先日の伊豆巡礼で三島・源兵衛川を田町のコロナ写真店裏から歩いた。
厳冬期だが、水量が少なくなると驚いた。
市内にこんな流れがあるなんて何ともシアワセ。

二十一番札所・蓮馨寺(れんけいじ)で昼食をいただき、再び、川を進む。すぐの所に「ラペー」がある。現在は、やや小さくなってしまったが、以前は源兵衛川を一望できる大きな喫茶店でデート・スポットだった。

余談だが、右手東には「東海劇場(映画館)」があった。私はそこで、大島渚監督、桑野みゆき・川津裕介主演の「青春残酷物語」を観た。中学生だった。桑野はなかなか美人だった。まだ、在命のようです。

「ラペー」の裏に大きな樹があった。赤い実をたわわに付けていた。三島市在住で初参加のHさんが、「あれはモチの木」と教えてくれた。それにしても見事な樹である。

ちょうど、翌日、静岡新聞のレッツ植物楽(がく)に、この樹の紹介があった。新聞には、正式名は「黒鉄藜(クロガネモチ)」モチノキ科。雄雌異株の常緑樹。花は目立たないが、秋は真っ赤な実が華やか。

排気ガスに強く街路樹として利用。「カネモチ」が「金持ち」で縁起が良いとされるとあった。子供の頃、トリモチを作り、メジロなど捕獲した記憶があります。



1月21日(金)晴・7/30

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年1月20日(木)06時05分1秒

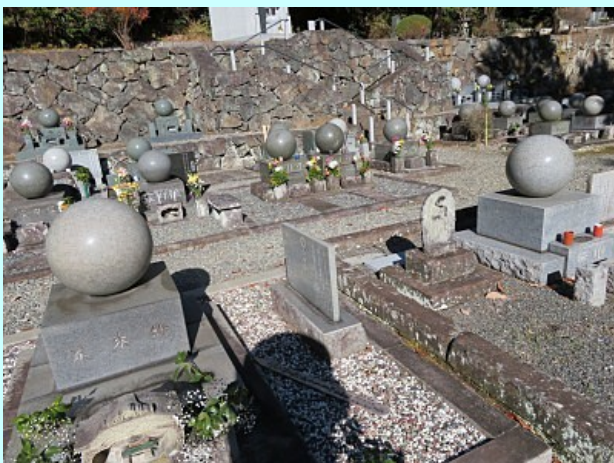
今朝は、遂に家内で7度！！

またまた、旧聞で恐縮ですが、先日、巡礼で龍澤寺に寄った。
寺の墓地は、一見、変わった風景がある。

墓石が丸いのだ。丁度、地球儀のような感じ。
地震が来たら、コロコロ、三島の街まで転がって行きそう。
各地で墓石を見るが、丸はあまりない。

以前、聞いた話では、「四角の墓石は、角が立っていけな」で、
丸くなった、という。

他、丸は永遠・終わりが無い・悠久・平等、などの精神を感じる。
なかなか、よろしいかと思いました。





[返信・引用](#) [編集](#)

1月19日(水)晴・8/30

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年1月19日(水)05時55分38秒

今朝は、家中で7. 8度。今冬、一番の寒さではないか??
今まで、山で一番寒かったのは、赤岳で-21度。

先日、伊豆巡礼の折、三島・源兵衛川を歩いた。
冬でも、清冽な流れがあるのは驚きだった。

途中、地元の方が、「ミシマバイカモ」を石の重しをしていた。
大水が出ると流されてしまうという。

トイレで休憩。すぐ隣に「カワセミ」が一羽、枝に止まっていた。
いつも、カメラマンが多いが、トイレ掃除のオジサンの話では、
最近、鳥が縄張り変更で下部移動で、カメラマンもそちらに行ったとい
う。

カワセミの雄・雌の見分け方は難しい。オレンジの口ばしの上下が同じ
色は雌。上がオレンジ、下が黒いのは雄。今回のカワセミは、雌でした。

それでも、一羽いてくれたのは、大サービス。ギャラリーは大喜び。
ありがとう、カワセミちゃん!!!



1月18日(火)晴・11/39

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年1月17日(月)16時55分38秒

つづき

一本滑って時間は11時。空腹を感じたので昼食にした。今回は二人なので静かでイイ。午後の部があるので、ビアはやらなかった。相方はやってみた。30分休んで午後の開始。

お腹が膨らんだら上りは厳しい。今度は、下塚に上る。ここは急で滑り易い。

相方はビアの性で上りは苦しそう。上塚コルから頂を目指す。頭上に何処かのツアーだろうか、15~6人、ゾロゾロと三辻方面に向かった。上塚は行かないようだ。

山頂下から滑降。今度は、上から写真を撮りたいので、相方に先に行って貰う。

雪はカチカチだが、案外、滑りやすい。モナカよりマシだ。快適に下塚を滑降。下からカップルの登山者が二人来た。

登山者の脇まで滑る。「気持ちよさそうですね〜」「凄いですね〜」「どうやって

上るんですか」と質問が飛ぶ。ギャラリーが居た訳でもないが、下まで滑ってもう一本挑む。

上塚を目指した。ただ、上塚は上部に雪がない。途中で終わりにして滑降する。谷を越え、左の大斜面を滑る。傾斜が緩く滑りやすい。相方の動画を撮った。今まで動画は余り撮ったことはない。

帰って編集したが、パソコンでは観れるが、スマホではダメだった。なかなか、難しい。絵はサイコーに良かった。台地をこなし、二合駐車場脇まで滑った。大満足。初スキーにしては上出来だった。

後はスキーを背負って、ブラブラ、洞門まで歩いた。何処かのオジサンが一人でソリを持って山に向かった。えええ〜だった。

おわり



1月17日(月)晴・9/30

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年1月16日(日)16時10分36秒

土曜日は、

富士山・ニッ塚（1929m）で山岳スキーでした。
コースは、洞門～上塚コルまで上り～下塚下まで滑降～下塚頂上まで上り～下塚下まで滑降～上塚上部まで上り～二合目駐車場上まで滑降～歩き～洞門。天気＝晴れ・下部風なし、雪＝少ない・ガリガリバーン、累計標高差＝約639m＋約400m＋約303m、参加＝2名。

先日、富士山に待望の雪が降った。ハイキングの予定もあったが、参加者が少ないので、山岳スキーに変更した。周遊道の雪は少なかった。洞門駐車場はイッパイ。少し上に置いた。

スキーは背負って行く。ピッケル・シール・スキーアイゼンは、軽量化で置いていく。ただ、アイゼンは必携。下部は暑くて汗が吹く。二合目駐車場から雪があった。しかしカチカチ。ここでアイゼンを履いた。

雪というより、氷なので歩き易い。降った雪は、飛ばされたようだ。吹き溜まりにはパウダー雪があった。天気は良かった。風もない。登山者は居なかった。滑降適地を探りながら上る。

約2時間って上塚・下塚コルに着いた。いつもなら幕岩に一本滑るが、黒雲が急に湧いてイヤな感じ。ホワイト・アウトを避けて、上りし方向に一本滑った。半年ぶりのスキー。最初は、ギコチない。

次第に調子上げ、下塚下着。雪は雪というより、殆ど氷。でも、ギリギリエッジは立つ。誰も居ない雄大な富士にシュプールを刻む。う～ん、やっぱりスキーは素晴らしい。

つづく PS＝関係者に動画を送りました。ただ、まだ研究不足でパソコンしか見れません。



1月14日(金)晴・8/38

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年1月14日(金)06時15分45秒

今朝は、かなり低温です。

つづき

蓮馨寺の境内で何人か弁当を広げた。風が無く陽光が温かい。寺に元会社の同僚の奥様の墓があった。奥様も同じ会社だった。結婚して61歳で亡くなったという。寺の奥様に聞いたら、「毎日墓参りに来ている」といった。

12時になると外食組がゾロゾロ帰って来た。冗談だろうが(ホント?)「ビアもやっちゃた」の女子もいた。考えてみたら、もう少し歩き、大社前の「はま寿司」を紹介すれば良かったと思った。

午後の巡礼を開始。寺裏から再び、源兵衛川を歩く。すぐ近くの喫茶店「ラペー」に赤い実をたわわに付けた大きな木があった。それにしても見事な大木だった。今回初参加で本町在住のHさんが、「あれはモチの木」だと教えてくれた。(ちょうど、昨日、静岡新聞のレッツ植物楽(がく)に紹介があった)

Hさんは、私と同じ1947年生まれ。自ら「私はマグロ人間」という活動家。四国お遍路を一人で、「順打ち・逆打ち」をやっている。このような方が、山をやったら凄いだろうと思った。

源兵衛川を抜けて、昔の「花や」前を通過。ここにHさんらが共同でやっている「アヒル文庫」がある。300円で入会出来るそう。白滝公園から菰池を経由し、山田川から龍澤寺に向かう。新しい方が、ちょっと疲れ、「あとどのくらい、どのくらい」連発で途中休憩。

新参加の方も、三か月经過すれば楽になる。龍澤寺で最初、墓地に寄る。ここの墓石は「丸い地球儀型」。以前、ちらっと聞いた話では、四角柱は、「角があっていけない」だった。

お勤めをして、今日は終了。新しい方もよく頑張りました。山門を出ると、門柱に山本玄峰著書の「無門開提唱」が掲げられていた。

おわり



1月13日(木)晴・12/41

投稿者:たかちゃん 投稿日:2022年1月13日(木)08時12分48秒

昨日は、

2022年度・初巡礼でした。巡路は、16番・興聖寺～17番・泉福寺～18番・宗徳院～19番・蓮馨寺～21番・龍澤寺。天気＝無風快晴、参加＝17名、距離＝約10km。

2022年・初巡礼。今月から新しい仲間が9名加わった。前回、最終の興聖寺着。バスの中の説明が忙しく、前回、お参りしたのに、またお参りしてしまった。ま、新しい方がいたので、それはそれで良かった。

天気は無風快晴。昨日の降雪で富士山が美しかった。裏道を辿り、泉福寺着。時間が早かったので、本堂で住職がお勤めをしていた。電話連絡したが繋がらなかったが、在住で良かった。ただコロナ故、外でお勤め。

松本から畑中を抜けて、宗徳院着。境川の流れがキレイだった。厳冬期でも流れがあるのは素晴らしい。境川の源流は、三島駅の北、東レ南回りになる。名称は、「伊豆」と「駿河」の境から呼ばれる。

本堂でお勤め。本堂は、富士山型で音響に優れ、お経が良く聞こえる。寺を辞し、境川を北上する。川面にカモが遊んでいた。南田町から源兵衛川に入る。川中に歩道があり、イイ雰囲気。

途中、地元の方が、「ミシマバイカモ」を石の重しをしていた。大水が出ると流されてしまうという。トイレで休憩。すぐ隣に「カワセミ」が一羽、枝に止まっていた。いつも、カメラマンが多いが、最近、鳥が縄張り変更で下部移動で、そちらに行ったらしい。今回の「カワセミ」は、サービス??!!

広小路まで川中を歩いて蓮馨寺着。お勤め後、ここで昼食。弁当組、外食組に分かれた。ただ、今日は水曜日で、「うなぎの桜家」は休みだった。我々は、境内で弁当を広げた。

つづく



1月12日(水)晴・10/40

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年1月11日(火)16時58分4秒

今日は、1月度・伊豆巡礼です。

先日、初登山下山後、時間があつたので、大仁梅園に寄つた。
梅園は、大仁神社の裏にあつた。梅の開花は、まだ早かつた。

ちょっとだけ、紅梅・蠟梅が咲いていた。
大仁神社は、案外、立派な神社だつた。
お祓いをする方を仕切つたのは、女性の神主さんだつた。

最初、巫女さんかと思つたら違つた。
まだ若い方だが、聞けば、ちゃんと資格を取得してあると言つた。
なかなか、キレイな方でした。

境内の手水の給水口のモチーフは、狩野川の鮎釣りを模した、アユ
でした。なかなか、ユニークでした。

(この日記は、11日書きました)





1月11日(火)雨・12/47

[返信・引用](#) [編集](#)

[集済](#)

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年1月11日(火)06時50分17秒

つづき

間違いピークから岩場を下って、右にトラバースして正規ルートに乗った。上り切れば、242.8m、「一之洞」、四等三角点着。三等三角点までは、花崗岩柱だが、四等は、丸い金属のプレート。

北東尾根は事実上、ここで終わり。数m下れば、三津からの一般道に出る。北東尾根は、短かったが、なかなか手ごたえのあるルートだった。常に新しい発想で山に上りたい。一般道を発端丈山に向かう。

北面なので、先日の雪が現われ、ヌルヌルと滑った。急登をこなして頂上着。天気は悪くはないが、雲が多く、富士山は見えなかった。残念。それにしても素晴らしい頂上。これほど気持ち良い頂上は、なかなかない。単独の登山者が、数名やって来た。静かに北を向いて自然と対峙していた。これも、なかなかイイ。

円陣を組み、ちょっと早い腹を満たす。大汗を掻いたので、ビアが美味しかった。16時から食事会があるので、食べるのは、ほどほどにした。食後、葛城山・城山に向かうが、温泉に入りたいので、両峰はパス。

懐かしい城山岩壁に、何人か取り付いていた。女性の声も聞こえた。城山は、若いころ、随分上った。自分たちで拓いたルートも何本かあった。基部にテントを張り、泊りでルート開拓もした。夜は大仁に飲みに行った。懐かしい思い出。ただ、既に岩壁をやる気持ちは失せた。

城山登山口から、車で大仁温泉「一二三荘」着。昔から使っている温泉。女将さんはイイ方。会員のKは、ここの息子さんと大学で同級だったという。温泉は、四百円と超安価。そんな訳でもないだろうが、混んでいた。

ただ、コロナもあって入浴は四名限定。誰か出るまでは入れない。浴槽は、駿豆線脇。昔は塀もなく、電車の乗客が良く見えたが、流石に最近はお堀を作った。良く温まる、イイ温泉だった。

食事会は近くの食事処「たけ」初めての店だったが、気さくなオヤジでレトロ感覚の店が良かった。お品書きの短冊が、所狭しと下がっているのは笑ってしまった。人気店らしく、その後、ゾロゾロ来客で、すぐ一杯になった。

食事会は登山をしなかった会員三名も合流し盛り上がった。昨年の感想・反省、今年の抱負・目標を語り合った。わが会は、決して大きな会ではないが、まあ、こんなものでよろしいかと。今年も頑張ろう。

おわり



1月10日(月)晴・12/42

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年1月10日(月)06時32分9秒

8日は、

初登山で、発端丈山（ほったんじょうざん・410m）北東尾根でした。コースは、長瀬・熊野神社～北東尾根～三角点・一之洞～三津からの一般道～発端丈山～城山登山口。天気＝無風・晴・高温、登山参加＝5名、新年会＝8名。

車で城山登山口に行き、歩いて長瀬に向かう。長瀬まで4km、約1時間。途中、葛城山ロープウェイが頭上でカラカラと動いていた。随分早い時間の営業である。

近くに、「ピオーネ発祥の地」の看板があった。名前は、井川さんだった。先が長瀬集落で、発端丈山と葛城山のコルに向かう林道が伸びていた。

林道を少し入った右に「熊野神社」がある。ここが北東尾根の入り口。神社裏手から尾根に乗る。2022年初登山も「藪」から始まった。藪はそれ程、辛いものではなかった。ただ、この日は気温が高く、大汗が噴き出た。

神社上の尾根には、昔の遺跡らしい石の基礎などが見られた。以前は、建物があつたと推察された。更に上には、小さな祠もあつた。発端丈山の山名もちょっと変わっているし、何となく宗教色を感じる。

標高点の234mから藪は無くなり、ウバメガシと岩場が多くなった。伊豆沿岸の山で多く見られる山容だった。快適に上り、四等三角点・242.8mの上りに掛かる。

ところが、ここの地形がやや複雑で、GYがスマホを見たら、一つ手前のピークの南の尾根を下っていた。正ルートは、ピークの北を巻くようにコルに出るのが正解だった。

つづく



1月7日(金)晴・9/40

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年1月7日(金)06時57分53秒

昨日の雪は、山の吹雪と違い、「ボタン雪」は、ふわふわと、優しく風情があって良かった。

1/4つづき

そのすぐ下で、もう1名男子が上って来た。彼は無言だった。後で会わなかったなので、結果は不明。下りは楽で速い。途中で地元の単独の女性に会った。地元なので、ブラブラ、前三ッまでと言った。盛んに「下りのラッセルをお願いします」と発言。

下りで雪が多くない場所は、アイゼンが岩に当たりバランスを崩す。トップで下っていて、岩に引っ掛かり、頭から大コケした。急坂が終わったので、アイゼンを脱ぎ、行動食を食べる。K姉御推薦の「温かいホットお汁粉」がサイコーに美味しかった。

食事後も男性1名と会った。時間的に遅い。最初から頂上の計画ではないだろう。急坂を下り切って防火帯に差し掛かる頃、やはり地元のシバタさんに会った。白髭が似合う温和な感じの方だった。お歳は78歳。今年、権現は26回目と言った。

今回は、三ッ頭まで。家にいるとWが五月蠅とのこと。元々、東京だったが、千枚田の指導でこちらに移り住んだと言う。結構、長々話し込んでしまった。このような年配の方が、今も歩いてるのは心強く嬉しい。靴は、しっかりした革靴だった。

今回は、I君と上り、己の力の無さを痛感した。以前、あるベテランの方に「山の引き際は、いつだろうか？」と聞かれた。そんな時、私がいつも言っているのは、それは「山が教えてくれる」だった。今回は、正にそれだった。

初めての冬山は、1968年、甲斐駒・仙丈だった。爾来、54年頑張ってきた。今回、若く馬力がある後継者が現われた。今後を任せるには、丁度、良い機会だ。今回は、「権現さまから引導を渡された」のだ。引き際を「権現さまが教えてくれた」有難いことと受け止めたい。

おわり



1月6日(木)晴・10/30

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年1月5日(水)17時08分12秒

先日、
富士山で、今まで見なかったものを見た。

富士登山大量遭難死(50年前)

1972年(昭和47年)3月20日、日本山岳史上、一般の登山者による最大の大量遭難が、
それも日本のシンボル富士山で起きた。
その日山陰沖で、午前3時頃から台風並みに急速に発達した低気圧が、日本海を北東方向に進み、この低気圧に向かって強い南風が吹き込むという典型的な“春一番”が全国的に吹き荒れた。特に富士山では19日夜半から横殴りの冷たい雨が降り、翌日も前夜からの雨が降り止まず、午後になると風速31~35m/秒の猛烈な風雨となり、瞬間風速50m/秒という突風が吹いたという。

そのため雨に対する装備がほとんど無かった遭難者の濡れた身体の体感温度は、マイナス30~40度になったと推定され、体力を急速に奪われた。

遭難した静岡頂山山岳会の9人は、ビバーク(野宿)していたが防水の装備がなかったためびしょ濡れになり、朝方下山したが、激しい雨に打たれ7人が睡眠不足と疲労で凍死した。清水勤労者山岳会の11人は、風雨の合間を見て単独登山者とともに下山したが、午後になり強い風雨のため7人が衰弱して死亡、5人が雪崩に襲われてばらばらになり1人がようやく御殿場署にたどり着いた。そのほか6人が行方不明となったが雪崩による死亡と断定されている。当時55人が登山中でそのうち半数近い24人が死亡・行方不明となった。

(出典:宮澤清治著「日本気象災害史」、さんきのつぶやき No.169「突風・富士山大量遭難」ほか)・・・ネット

ニッ塚から下山した。いつもは沢コースを下るが、最近は変化を求め、変わったコースを歩いている。一昨日、今まで通らなかった樹林帯を行くと、前方に何か碑みたいのがあった。

近づき見たら、上記の静岡市・頂会(いただきかい)の慰霊碑だった。この事故は大きな事故で、我々の仲間の清水勤労者山岳会も犠牲者が出た。頂会には、私の友人だった、裾野市の瀬戸敬三(たかみつ)君(24歳)もいた。彼はヒマラヤに上る訓練中だった。

慰霊碑には、作家・新田次郎氏の作詩が刻まれていた。新田次郎は、1966年気象庁を退職。1956年には、「強力伝」直木賞を受賞している。事故は1972年だから、頂会と何らかの繋がりがあったのか。

清水労山も二合目上に慰霊碑があったが、永い年月で朽ちてしまった。私はその時、何故か山に行かず、会社の寮で記録を纏めていた。富士山に行っていたら、現在の私は無かったかもしれない。丁度、50年前の出来事だった。





1月5日(水)晴・11/35

[返信](#)・[引用](#) [編集](#)
[集済](#)

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年1月5日(水)05時31分14秒

昨日は、

富士山・ニッ塚で初登山でした。

昨日は、風はややありましたが、極度の寒さではなかったです。

下塚から上塚を上り、50m標高差を稼ぎました。

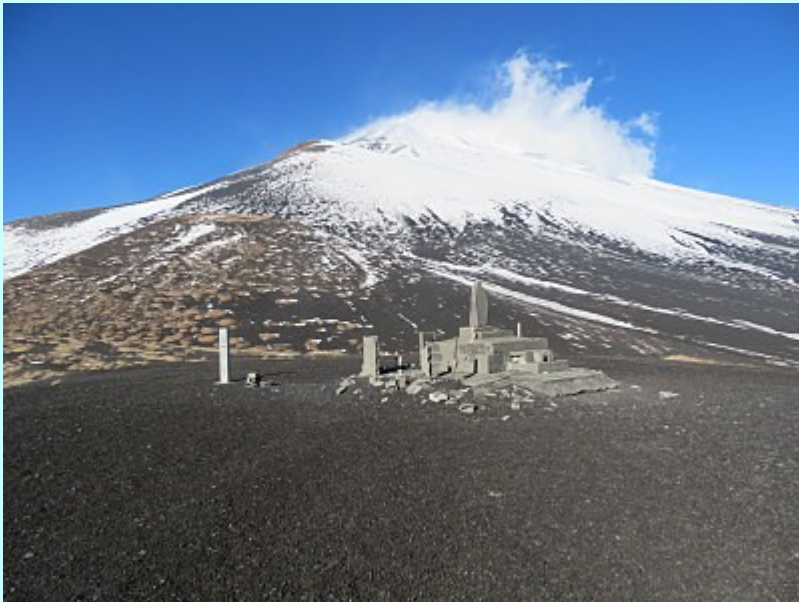
上部は、モーレツに時化ていました。

2日に九合で滑落事故があったばかり。

この時期の富士山は厳しい山です。

単独登山は、ご法度です。

駐車場には、広島・熊谷 NO の車がありました。



1月4日(火)晴・10/40

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年1月4日(火)06時24分53秒

つづき

後ろから、意識的にタラタラ上るのは、登山の醍醐味を欠く上に「ラッセル泥棒」と良くは言われない。しかし、これは一つの「モラルの問題」で勿論、礼を言う義務はない。

尾根手前で空腹を満たした。今朝は、4時起床ですぐ朝食だった。既に5時間経過しているから腹は減る訳だ。完全装備で尾根に出る。前三ツ頭から三ツ頭で標高差は約215m。前回の快晴時で約1時間掛かった。今回のこの天気では、順調でも1時間半は掛かるだろう。

しかも、吹きすさぶ雪は、妙に湿った重い雪だった。顔にバシバシ当たると痛くて堪らない。そういえば、この日は朝から気温が高かった。依然として、I君が頑張っって引っ張る。ドンドン先に進むと姿が霞んでしまった。

大声で呼び止め、「どうするか」相談する。初見のI君には、せめて三ツ頭まで上って欲しかった。ただ、この暴風雪で上り1時間半耐えられるだろうか。勿論、その帰りもある。

・・・冬に初めて権現岳に上ったのは、1986年2月22～23日。当時は、三島労山だった。丁度、39歳の誕生日だった。コースは今回と同じ、天女山登山口から往復。相方は、冬の北鎌、奥穂、常念、など共にしたKさん。

記録では、前三ツ頭までの予定だったが、手前で幕営した。頂上を落とし、下山もワカンを使ったとあるので、雪は多かったようだ。登山口11時間半は、いいペースだった。ま、元気が良ければ、山中一泊が良いだろう・・・

フッと先日、知人の仲間が、白山でやはり地獄の中、頂上に辿り着いたが、亡くなったことを思い出した。頂上に着いたが、既に引き返す余力が無かったのだろう。最悪の結果で、そんな登頂が何の意味があったのだろうか。

昨年末もそうだったが、「無理・無茶・無謀」は、「遭難と紙一重」だ。ここは、捲土重来、潔く引き返すことだろう。そう決まれば、撤退は速い。すぐ下に例の彼がいた。結果、彼も後に下って来た。「自分はラッセルがなければ、あそこまで上れなかった」と礼を言った。

つづく



1月3日(月)晴・11/39

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年1月3日(月)05時32分33秒

つづき

前三ツ頭上り手前でトップをI君に任せる。I君は、ガンガン上って行く。このところ全ての山に参加しているので絶好調の様子。加えて先日、私と一緒にローバ最高級冬靴を新調した。

I君が今まで履いていた革靴は、片足約1.5kgと重かった。ローバは、約950g。相当の軽量化が出来た。絶好調は、その要因でもあった。

新しい靴は、軽量だけでなく防寒も備えていた。同行のK姉御が「足先が冷たい」と嘆いていたが、我々の靴は、全く問題なかった。やはり、新しい素材の靴は素晴らしかった。

ただ、今回、手が冷たかった。いつも最初冷えるが次第に蘇って温くなるが、手袋はアンダー2枚、5本指のオーバー手袋1枚だが、全くダメだった。K姉御に二股のオーバー手袋を借りる始末。これは改善が必要だ。

前三ツ頭の上りからガスが覆って来た。風も唸り出した。風雪の山は久しぶりだった。体は重かった。昨夜、飲み過ぎだったか。I君は、吹き溜まりの膝上の深いラッセルをモノとせず、ガシガシ上って行く。頼もしい。見ていて気持ちが良い上りだった。彼は、来年1月で52歳。私は2月で75歳。いつまでも馬力を維持出来るわけではない。

厳しい上りをこなして、漸く見覚えのある、前三ツ頭着。上の尾根は、モーレッツな吹雪だった。「地獄モード」に突入。後ろから50半ばの男性が1名やって来た。我々を抜かしてラッセルをしてくれと思いきや、彼は休んでしまった。それでも、「ラッセルの礼」は言った。

最近、この「ラッセルの礼」を欠く輩が多い。雪山登山は、ラッセル如何で楽だったり、苦しかったりする。ラッセルがあれば、例え出発がトップから2時間遅くても最後は追いつく。それだけトップは労力が大きく、後発は楽に上れる訳。

つづく

(写真は、2020/01/16のもので)



1月2日(日)晴・8/36

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年1月2日(日)06時37分39秒

今朝も寒い。家中で8度は寒い！！

年末冬山は、30日、八ヶ岳・権現岳(2715m)でした。コースは、天女山登山口から往復。標高差=最高到達点2390mまでで、1020m、天気=風雪、出会った方5名、参加=3名。

昨年末も書いたが、ここ何年か、年末登山は、厳しい登山が続いている。今回は、特にそれを思い知った。私も2月で75歳。真剣に世代交代を認識する時だろう。

天女山登山口着。車が1台あった。車中には、まだ人がいた。ラッセル待ちだろうか。天気は良くなかった。風があり雪がパラパラしていた。今回は完全に天気を読み違えた。本来、計画は昨日上る予定だった。

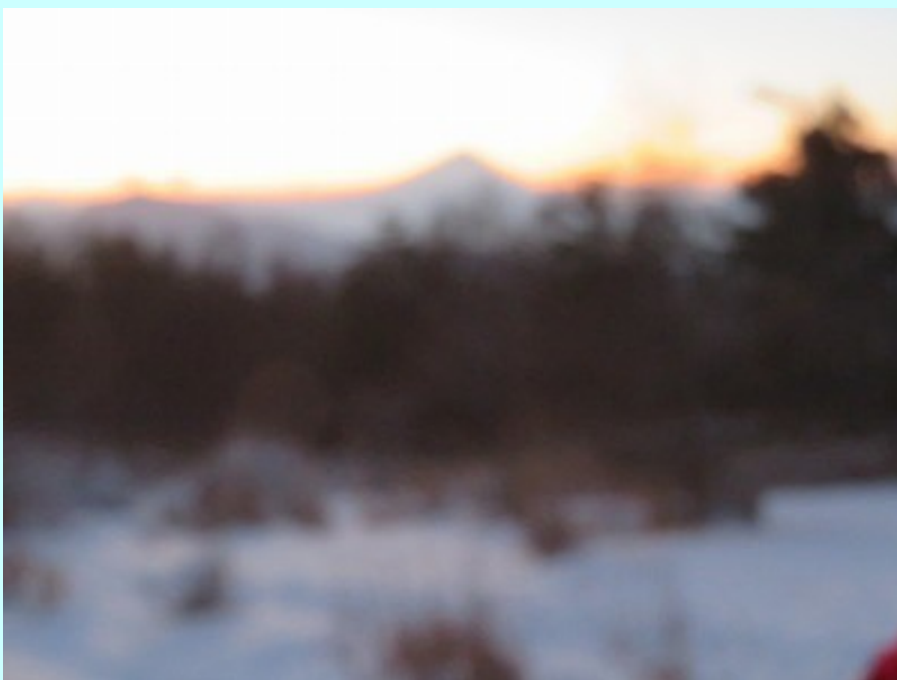
昨日は風もない好天だった。1日ズラした訳は、29日、まだ気温が低い予報だったからだ。ところが、予報は外れて更に冬型が強くなった。まだ暗かったのでヘッドランプで出発。下部の嫌な長いアプローチを暗いうちに済ませるのは嫌いでない。若いころは、1時発なんかザラだった。

前三ツ頭(2364m)の急登の取っ付きの標高約1900mまで防火帯のような地形が続く。登山口から標高差は約530m。長いわりに高度を稼げない。権現岳の難しさはこんな所にもある。しかも、標高約1900mから前三ツ頭まで、標高差約450mは超キツイ。

5:30、まだ暗い中、上っていると、何処からか音楽が聞こえた。最初、スキー場からと思った。ナイターのスキーか？ただ、音源は近くだった。実はI君のスマホだった。

彼は5:30に目覚ましをセットしてあるという。その後も目覚ましは、6:00、6:30と続き、一体いつまで続くのと、笑ってしまった。ようやく明るくなった。日の出だった。下部はガスがなかった。一息入れ、ランプを仕舞う。南方は晴れていた。富士山が大きかった。

つづく



2022年1月1日(土)晴・8/32

投稿者:たかチャン 投稿日:2022年1月1日(土)06時39分8秒

あけまして

おめでとう

ございます

2022年元旦

本年もよろしくお願い致します。

登山は、61回。新しい山は、頸城・高松山、白砂山、能郷白山、石裂山、那須連峰（周回）、子檀嶺岳、夫神山など。

伊豆巡礼・富士山ウオークは順調。3月に「四国お遍路記録本」
(A4・オールカラー・p230)を上梓しました。

〒411-0943

長泉町下土狩1541-12 後藤隆徳・あい子



